

わかば会誌

第11号

2019.1

巻頭言

平成最後のお正月

石川県立中央病院

病院長 岡田 俊英



あけましておめでとうございます。遂に平成最後の年、平成31年が始まります。

思い起こせば今から31年年前、昭和64年正月、私は奇しくも現在と同じ職場である石川県立中央病院消化器内科医師として当院に勤務しておりました。1月7日の午後、1病棟7階回診中の個室のテレビで見た、新元号『平成』と墨書された台紙を手にした小渕内閣官房長官の姿をはっきりと覚えています。

元号は紀元前の中国、前漢の武帝の時代に、漢字と数字の組み合わせで年次を表したのが始まりとされ、皇帝が領土や領民を時間的に支配する、その支配の象徴だったという指摘もあります。日本では、西暦645年に孝徳天皇が定めた「大化」から、今の「平成」に至るまで、1300年余りの間に247の元号が使われてきたそうです。日本ではかつて天皇の代替わりだけではなく、自然災害などを理由に改元が行われ、天皇一代で8つの元号が使われたという記録もあります。

明治の改元の際に、こうした慣習は改められ、天皇一代に使う元号を1つとする「一世一元制」が採用され、明治22年に発布された旧皇室典範には「一世一元制」が明記されました。また明治42年に交付された登極令では皇位継承後、直ちに元号を改めることや元号は枢密院に意見を求めたあと、天皇が定めることなどが定められました。

しかしながら、第二次世界大戦後、日本国憲法が施行されるのに合わせて旧皇室典範が改正され、登

極令も廃止されると、元号に関する一切の規定が失われます。元号はその法的根拠を失い、いわば漂流することになったのですが、昭和54年、「元号は政令で定める」と「元号は皇位の継承があった場合に限り改める」という2つの項からなる元号法が成立。元号は法的根拠を取り戻しました。

平成という元号を決める際、最終候補として「平成」「修文」「正化」の3つがあったとされています。「修文」「正化」はアルファベットの頭文字が「S」であったため「昭和」の「S」と重複してしまうため、選ばれなかったという説があります。

それが真であれば、次の元号はアルファベットの頭文字が「明治」の「M」、「大正」の「T」、「昭和」の「S」、「平成」の「H」と重なってしまう、つまり「サ行」「タ行」「ハ行」「マ行」ではなく、「ア行」「カ行」「ナ行」「ヤ行」「ラ行」「ワ行」のいずれかから始まる新元号が採用される可能性が高いと言えます。

平成最後となる今年。次の年号に思いを馳せると共に、改めて平成を振り返り、思いも新たにしようと思います。石川県立中央病院も昨年1月9日の新病院開院依頼漸く1年が経過しました。確かに病院は新しくなりましたが、問題は多々あり日々職員一同で改善に取り組んでおります。皆様方に於かれましても何卒、高所より御指導を頂けますようお願い申し上げます。

ふと気がつけば還暦

津幡町 いこま眼科医院

生駒 尚秀



十干十二支で己亥(つちのとい)を60年ぶりに迎えます。

1959年11月生まれ、還暦になります。まさに光陰矢のごとし、このような原稿依頼をいただかなければ自分の歳(老化?)を振り返ることもなく毎日を送っていたことでしょう。十二支(12年)を一区切りとしてそれぞれの亥年になにをしていたか振り返ってみました。

生下時は父親が河北中央病院産婦人科に勤務しており、幼少期は津幡銀座商店街の一角の借家に暮らしていました。2回目の亥年(12歳)、世間は札幌冬季オリンピックと相撲で盛り上がり、学校ではスキージャンプのまね、休み時間は廊下で相撲ばかりしていてまわしならぬバンドの止めが切れてずり落ちたズボンで授業に出ていました。

3回目(24歳)、医師国家試験受験のため学校の授業はほどほどにもっぱら家で試験勉強、飽きると夜はMTV(当時流行った洋楽ビデオ)を流して

いる喫茶店などで息抜き。今のかほく郡市には医科大のほか河北中央病院に非常勤眼科しかなく自分も眼科通院に不便を感じたことが、眼科専攻、開業のきっかけとなりました。

4回目(36歳)、医科大眼科勤務11年を経てかほく郡市医師会入会、津幡町で眼科を開業、

父親が亡くなるまで1年半だけ、眼科・産婦人科として一緒に診療しました。

4回目の亥年以降は眼科開業医生活、5回目の亥年(48歳)はいつの間にか過ぎ去り、今は開業後22年になります。

地域医療に携わってからは、日進月歩の医学についていけるよう精進し、開業当初の患者さんに感謝していただけたときのやりがい忘れず、患者さんの心の機微にも気がつける臨床医になれるようにもうしばらく(出来ればあと12年、子供も小さいし?)お役にたてるよう頑張ってみよう、いや頑張らねばなりません。

新会員紹介

自己紹介

かほく市 保志場医院
保志場 八千代



河北郡市医師会に入会させていただきました、高松の保志場医院にて内科をしております 保志場八千代です。当院は昭和12年に祖父が旧高松町にて開院し、産婦人科をしておりましたので、私は生まれも育ちも我が家です。幼少の頃から祖父の診察室に遊びに行ったり、往診について行ったりしていたせいか、特に医師になれと言われたわけではありませんでしたが、いつしか医学の道に進んでいました。今では医学部の半数近くが女性という時代ですが、私の学生時代はまだ女性は10%くらいで、女

性が医師を目指すのは珍しい時代でしたし、入局した循環器内科も体力勝負で男性社会といったところでした。仕事に追われる毎日、ふと将来を考えた時に、大学の医局という組織にいることに全く興味がなく、嫁に行くには向かない性格に気が付き、2006年から金沢医科大学循環器内科を非常勤となって保志場医院での診療を始めました。

大学病院での専門科ごとの診察とは違い、広範囲の知識が必要となり、時には内科以外のことも診なければいけないことに当初は戸惑いもありました

近況報告

津幡町 たなべ眼科医院 田辺 久芳

河北郡市医師会の皆様、津幡町で眼科を開業している田辺久芳です。先生方には日頃大変お世話になっております。この度還暦を控えての抱負と自己紹介という原稿依頼を頂きましたので、今までの生活をふり返ってみました。

私は金沢市で生まれ、小学校・中学校・高校・大学を金沢で過ごしました。大学時代には洋楽部に所属して合唱をしましたが、その他にはこれといった趣味を持ち合わせておりませんでした。開業してからは時間に余裕ができました体力低下を感じたこともあり、一念発起して運動をしよう・趣味を作ろうと思うようになりました。テニススクールに入会し若者に交じってコートで汗を流したこともありますし、現在はジムに通って筋トレ・有酸素運動を心掛けています。また文化的な自己啓発を目指して、全国学会や全国会議の際には必ず美術館巡りをするようにしています。5月にはプラド美術館展、10月には東山魁夷展を見てきましたが、時間の余裕が無くてフェルメール展やムンク展には行けませんでした。東京の美術館を訪れると若い人たちが非常に多い事に驚かされます。洋画展だけではなく日本画展や書画・陶芸展にも多くの若者が訪れており、啓発されます。彼らに倣って目を肥やしたいと思っています。また以前合唱をしていたのでオペラにも興味があ

り、金沢で開催されるオペラには顔を出すように心掛けています。最近では陶芸に興味が出てきて（鑑賞ですが）、美術館の陶芸展や各地の陶器市を訪れるようにしています。また家具（特に椅子）が好きで、飛騨高山に行った際には家具屋巡りをしています。

現在子育てはほぼ終了して子供も独立しましたので、これからは更に新しい事に挑戦していききたいと思っています。体力を維持して精神を若く保ちたいと思っていますが、サミュエル・ウルマンの「青春の詩」（宇野収、作山宗久訳）には、

青春とは人生のある期間ではなく心の持ち方をいう。バラの面差し、くれないの唇、しなやかな手足ではなく、たくましい意志、ゆたかな想像力、もえる情熱をさす。青春とは人生の深い泉の清新さをいう。（中略）60歳であろうと16歳であろうと人の胸には驚異にひかれる心、おさな児のような未知への探求心、人生への興味の歓喜がある。君にも我にも見えざる駆遣が心にある。人から神から美、希望、よろこび、勇氣、力の靈感を受ける限り君は若い。

とあります。この言葉を座右の銘にして、今後の人生を歩んでいきたいと思っています。

が、早12年が経過しました。途中40歳を境に肉体的にも精神的にも「しんどい」と思い始めた頃、ちょうど女性外来が認知されるようになった時期で、漢方薬と出会いました。若い頃は「漢方薬なんて何かうさんくさい」「あまり効かないんじゃないか」と思っていたのですが、勉強会に参加してみて、自分で味見をして試してみるうちにその効果に驚きました。漢方は散剤で量も多く飲みにくいですが、体に合えば慣れてきて飲めるようになり、冷え性で血めぐりが悪く「於血」がひどい私は、My漢方として今も当帰芍薬散などを飲んでいきます。最近では私が女性ということもあり、更年期と言われる世代の女性や、様々な愁訴の患者さんに接することが多くなってきて、そんな方々にも治療の選択肢のひとつとして漢方薬を処方するようになりました。まだま

だ勉強不足ですが、悩める女性や地元の方々のお力になれるようこれからも頑張りたいと思います。

私にはこれといった趣味がなく、運動も苦手、リフレッシュ方法は寝ることと、犬と遊ぶことぐらいで、このままではいけないと思いつつ休日は疲れてしまってなかなか行動できずにいます。健康で美しく(?)年を重ねるために何か始められればいいなと思っています。こんな私ですが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



消費税増税についての意見

かほく市 久保医院

久保隆之

平成30年9月30日に開催されました医療人テニス大会に、理事会の公認を得て河北都市医師会チームとして初参加しました。メンバーは私、妻、石倉先生、北先生、西村先生、最上さんに加え、市内薬剤師さん、医院職員、MRさん数人参加して頂き2チーム参戦しました。結果は初参加にしてはまずまずで楽しい経験になりました。ただ、北先生が二日酔いで集合時間に遅刻したため初戦を落としたことが残念でした。彼はいつも会合の時、時間ギリギリか遅刻してくるので、この機会に、今後時間厳守するようきつく叱っておきました。

もともと私はテニス未経験者だったのですが、患者さんに誘われて5年前からテニスを始めました。当初は私と妻、職員の少人数でしたが、次第に輪が広がりMRさん、訪問看護スタッフ、薬剤師さんなどLINE登録人数は30人を超えるようになりました。ただ、幽霊部員も多く、通常の参加人数は8人前後です。

指導者がいないのが欠点ですが、ラケットの進化もありラリーもすぐできるようになりダブルスでの試合も割とすぐに楽しめるようになります。ジムで黙々とトレーニングをしているよりずっと健康的で楽しいと思いますので、興味のある方の参加をお待ちしています。また、病院職員や介護職の方も参加していただければ、顔の見える関係も深まり、医療と介護の連携の強化の一助となることと思います。(練習日：火木PM 7時半～9時半 宇野気中学校テニスコート)



さて、10月に開催されました県医師会との懇談会の場で私は消費税増税について反対の意見を述べさせて頂きました。この場をお借りして、その根拠を説明したいと思います。アベノミクス開始時、日銀は2%のインフレ達成を目標にしていたが、消費税5→8%の増税により目標は達成できず、デフレから脱却できていない状況です。にもかかわらず、最近の世論調査では消費税増税容認派が反対派を上まわったと報道されていました。日本医師会も消費税増税に肯定を表明しています。しかしながら、このような世論形成は、財務省が定期的に報告する、日本政府の借金が1000兆円を超え、国民一人当たり800万円以上の借金に換算され、このままでは将来世代に大きなツケを残すと言う一方的情報によるものと思われます。確かにH30年3月に発表された日本政府の連結バランスシートでは負債1470兆円あります。しかしながら、これに対し資産は986兆円もの資産を有しています。マスコミはこの資産の部をあえて報道していません。さらに国債の459兆円を日銀が保有しています。日銀は日本政府の子会社に相当するため連結決算により政府の日銀への負債は帳消しになります。このように考えれば1470-986-459=25兆円が政府の純債務となります。この様にバランスシートで見ると日本に財政問題は存在しないと判断できます。(ノーベル経済学賞を受賞されたジョセフスティグリッツ教授もそのように指摘されています) また、日本国債は円建てで、国債のほとんどは国内の民間、地方自治体の資産であり、ある意味、国民一人一人の資産とも言えます。国民一人当たり800万円の借金があるのとは逆なのです。

そもそも国債が自国通貨建てで、徴税権、通貨発行権を有する国がデフォルトすることはありません。

せん。(家計やギリシャ政府と比較することはナンセンス)

日本ではプライマリーバランスにこだわり緊縮財政を継続していますが、これではGDPの拡大は望めません。諸外国では財政健全化の指標として「債務対GDP」を用います。この点において日本は世界で最も健全と言えます。よくメディアに登場する経済学者は消費税増税延期の際は国債が暴落する、増税の際は、増税しても景気に影響はないとの論陣を張りましたが、全て誤りでした。

誤りを認めず、緊縮財政の継続、消費税増税す

るのであれば、深刻なデフレ不況を招き、少子化問題の解決や社会保障費の充実など困難となることは確実です。今は緊縮財政や増税ではなく、長期にわたる公共事業の削減により脆弱化したインフラや社会保障費に政府が積極的に財政出動することが必要です。これによりデフレからの脱却の道が開けるものと思われます。メディアでは消費税増税が規定路線のように報道されていますが、安倍総理の決断次第では来年4月までは撤回の余地があるとのこと。世論の後押しでそうなることを望むばかりです。

河北郡市医師会・羽咋郡市医師会・金沢医科大学教授会



懇親ゴルフコンペ

表記のゴルフコンペが10月17日に能登カントリー倶楽部で行われました。近年、参加者数が伸び悩む中、山崎軍治先生のご尽力で今年からは羽咋郡市医師会からも御参加戴きました。天候にも恵まれ絶好のゴルフ日和でしたが、皆さんスコアメイクに苦労されたようで、100打越えの方も少なくありませんでした。いつも上手な先生方でもなかなかスコアは伸びなかったようでしたが、その中で、ベスグロは初参加の羽咋郡市医師会の疋島寛先生でした。スコアはさておき皆さん相互の親睦を深めながら楽しくラウンドできました。なお、コンペ開催に際して御協力戴いた金沢医科大学庶務課の皆様には感謝申し上げます。

(石倉)



1. 理事会・総会

平成30年 1月17日(水) 第10回理事会
 平成30年 1月20日(土) 平成29年度新年総会・懇親会
 「勝崎館」
 平成30年 2月21日(水) 第11回理事会
 平成30年 3月22日(木) 第12回理事会
 平成30年 4月18日(水) 第1回理事会
 平成30年 5月16日(水) 第2回理事会
 平成30年 6月 2日(土) 平成30年度定時総会・懇親会
 「河北亭」

平成30年 6月20日(水) 第3回理事会
 平成30年 7月18日(水) 第4回理事会
 平成30年 8月22日(水) 第5回理事会
 平成30年 9月19日(水) 第6回理事会
 平成30年10月17日(水) 第7回理事会
 平成30年11月21日(水) 第8回理事会
 平成30年12月19日(水) 第9回理事会

2. 学術研修会

【河北都市医師会学術講習会】

平成30年3月14日(水)
 演題：「慢性腰痛症に対する新たな治療
 ～デュロキシゼンによる疼痛抑制効果～」
 講師：富山県厚生連滑川病院 院長 南里 泰弘 先生
 平成30年4月11日(水)
 演題：「痒みを伴う皮膚疾患」～春から夏に多くみられる疾患から～
 講師：金沢赤十字病院
 副院長・皮膚科部長 川原 繁 先生
 平成30年5月9日(水)
 演題：①「肺癌診療の実際～ICI製剤の使いどころ～」
 講師：金沢医科大学 呼吸器内科学 高原 豊 先生
 演題：②「新ガイドラインに基づいたCOPDの治療戦略」
 講師：金沢医科大学 呼吸器内科学
 教授 水野 史朗 先生
 平成30年6月13日(水)
 演題：「H.pylori陰性時代における酸関連疾患の治療戦略」
 講師：洛和会音羽病院 消化器内視鏡センター
 センター長 蘆田 潔 先生
 平成30年7月11日(水)
 演題：「脳卒中診療：最近の話題と実臨床について」
 講師：独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
 脳神経外科 部長 藤沢 弘範 先生
 平成30年8月8日(水)
 演題：①「地域における当院の骨粗鬆症対策」
 講師：河北中央病院 整形外科 青木 裕 先生
 演題：②「見逃さないで、骨粗鬆症～転ばぬ先の杖に何を揃えようか～」
 講師：医療法人新会高田中央病院 糖尿病内科 部長
 奥羽大学 薬学部疾患薬理学
 非常勤講師 齊藤 美恵子 先生
 平成30年9月12日(水)
 演題：「慢性便秘の診断と治療一機能検査に基づいて～」
 講師：はっとり大腸肛門クリニック
 院長 服部 和伸 先生

平成30年10月10日(水)
 演題：「「血圧変動性」を新たな指標とする
 ～アジサルタンの役割を踏まえ～」
 講師：岡山大学病院 循環器内科 講師 三好 亨 先生
 平成30年11月14日(水)
 演題：「胃酸関連疾患の最近の話題
 ～GERD・薬剤起因性上部消化管障害の両面から～」
 講師：大阪医科大学附属病院 消化器内視鏡センター長
 准教授 竹内 利寿 先生
 平成30年12月12日(水)
 演題：「心血管系を考慮した糖尿病治療・循環器内科医の立場から」
 講師：特定医療法人渡辺医学会 桜橋渡辺病院
 心臓血管センター センター長 岩倉 克臣 先生

【河北都市医師会 産業医研修会・生涯教育研修会】

平成30年2月22日(木)
 演題：「某事業所の健康管理の取組み例」
 講師：金沢医科大学 衛生学 教授 石崎 昌夫 先生

【金沢医科大学病院学術交流会】

平成30年6月14日(木)
 演題：①「胸痛ホットラインについて」
 講師：金沢医科大学病院 心血管カテーテル治療科
 准教授 土谷 武嗣 先生
 演題：②「認知症センターについて」
 講師：金沢医科大学病院 高齢医学科 奥野 太寿生 先生

【「救急医療週間」研修会】

平成30年9月6日(木)
 演題：「石川ドクターヘリについて」
 講師：石川県立中央病院 救命救急センター長 明星 康裕 先生

【学校心臓検診講演会】

平成30年11月28日(木)
 演題：「どこまでわかる？突然死」
 講師：日本大学医学部小児科学 准教授 鮎沢 衛 先生

3. 会員親睦会

平成30年 6月10日(日) 河北都市医師会ゴルフ親睦会
 平成30年10月 7日(日) 河北都市医師会・金沢医科大教授会ゴルフ親睦会
 平成30年10月27日(土) わかば会「つばき」

編集後記

明けましておめでとうございます。平成最後のお正月にもわかば会誌11号を皆さまにお届けできてホッとしております。巻頭言では石川県立中央病院の岡田院長からは普段私たちが余り深く考えていないかもしれない日本の元号について述べて戴きました。今年、還暦を迎えられる生駒先生と田辺先生にはそれぞれの人生の歩みやこれからの生き方について書いて戴きました。新人紹介では干志場先生の漢方との取り組みを教えて戴きました。また、久保先生には先生が中心となつて活動され発足した河北都市医師会テニス部の宣伝の他、消費税に対するご意見を戴きました。貴重な御寄稿を戴いた先生方には改めて感謝致します。

会誌編集委員

石倉 直敬
 紺井 一郎
 沖野 惣一
 北村 勝利
 河村 公二
 金原 拓郎